

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、心より御礼申し上げます。

第1四半期の当社を取り巻く環境は、米国の通商政策の影響などにより世界経済の見通しの不確実性が増す一方で、脱炭素化に向けたグリーントランスフォーメーション(GX)投資や生成AI・デジタル技術の活用拡大に伴う電力需要の高まりを背景として、電力・製造業やデータセンター向けの設備投資が引き続き堅調に推移しました。また、工作機械関連などの需要は持ち直しの動きが見られたものの、電動車(xEV)の需要は地域ごとに強弱がありました。

このような環境のもと、エネルギーの安定供給や省エネなどに係るプラントシステムの受注拡大、原価低減活動などの収益性改善に取り組み、第1四半期決算は売上高・営業利益ともに過去最高を更新しました。これに伴い、中間期予想を上方修正し、通期予想も中間期予想の見直しを反映し、上方修正しました。

世界は、気候変動に伴う異常気象が顕著になり、災害リスクに止まらず、農業・漁業分野をはじめ、至る所で影響が出始めています。人々の生活の安全・安心は最重要課題と考えています。当社は、従業員ファーストの考えのもと、社員の安全と健康を最優先に、チームでエネルギー・環境技術の革新を加速させ、サステナブルな社会に貢献し、企業価値の更なる向上を目指します。

厳しい暑さが続きますが、株主の皆様におかれましてはくれぐれもご自愛ください。引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

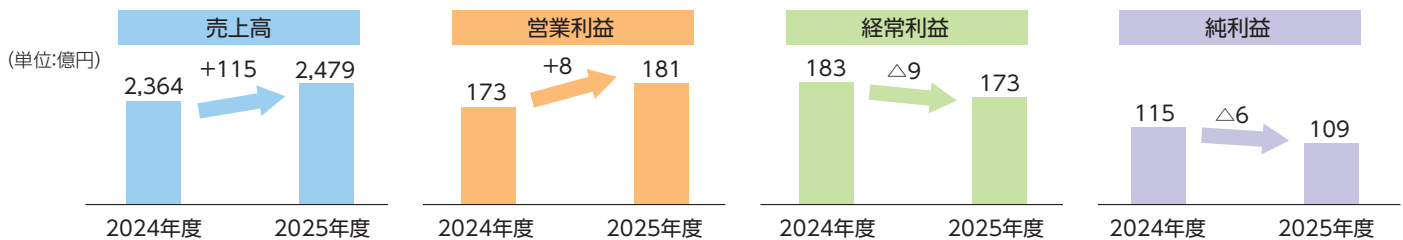
2025年8月

富士電機株式会社
代表取締役会長CEO

北澤通彦

2025年度 第1四半期決算

売上高・営業利益は過去最高を更新



売上高

前年同期に比べ115億円増加の2,479億円となりました。

エネルギーはエネルギーマネジメントの蓄電システムや変電機器の案件の増加、施設・電源システムのデータセンター向け需要の増加を主因に増収。インダストリーはオートメーションの鉄鋼分野向けプラントシステム案件や器具の機械セットメカ向け需要の増加、ITソリューションにおける文教分野の大口案件などにより増収。半導体は電動車向けの海外向け需要の減少や為替影響による減収があったものの、国内向け需要の増加や再生可能エネルギー向け需要の増加により増収。食品流通は自販機の国内向け需要の減少や、店舗流通の前年同期の改刷による特需の反動減により減収となりました。

営業利益

前年同期に比べ8億円増加の181億円となりました。

従業員の処遇改善による人件費の増加や半導体の設備投資に伴う減価償却費の増加、原材料価格の高騰があったものの、エネルギーを中心とするプラントシステム案件の増収に伴う利益改善、コンポーネント品を中心とする高付加価値商材投入による製品販売価格の値上げ、原価低減の推進などにより増益となりました。

純利益

営業利益は改善したものの、営業外の為替影響などにより減益となり、前年同期に比べ6億円減少の109億円となりました。

(単位:億円)

セグメント別	2024年度実績		2025年度実績		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
エネルギー	654	34	738	85	84	51
インダストリー	804	19	878	29	73	10
半導体	539	77	548	49	10	△28
食品流通	307	52	263	31	△44	△20
その他	138	8	138	8	△1	△0
消去または全社	△78	△17	△85	△20	△7	△3
合計	2,364	173	2,479	181	115	8

決算や業績予想のご説明はこちら

富士電機 IR説明会

検索

(右の二次元バーコードからも
アクセスできます。)



2025年度 中間期・通期業績予想 第1四半期決算を踏まえ、業績予想を上方修正

第1四半期決算を踏まえ中間期の業績予想を上方修正しました。通期も中間期の業績予想を踏まえ上方修正しています。

(単位:億円)	2024年度 実績		2025年度 4/25予想		2025年度 7/31予想		対前年 増減		対4/25 増減	
	中間期	通期	中間期	通期	中間期	通期	中間期	通期	中間期	通期
売上高	4,974	11,234	5,190	11,400	5,340	11,550	366	316	150	150
営業利益 (営業利益率)	403 (8.1%)	1,176 (10.5%)	340 (6.6%)	1,180 (10.4%)	405 (7.6%)	1,245 (10.8%)	2 (△0.5%)	69 (0.3%)	65 (1.0%)	65 (0.4%)
経常利益	389	1,188	310	1,165	370	1,225	△19	37	60	60
純利益 (純利益率)	355 (7.1%)	922 (8.2%)	190 (3.7%)	810 (7.1%)	235 (4.4%)	855 (7.4%)	△120 (△2.7%)	△67 (△0.8%)	45 (0.7%)	45 (0.3%)

第149回 定時株主総会開催のご報告

- 開催日時: 2025年6月25日(水) 午前10:00~10:51
- 開催場所: ウェスティンホテル東京

第149回定時株主総会には59名の株主様にご出席いただきました。当日は2024年度の事業活動を映像でご報告し、近藤社長COOより2025年度の対処すべき課題についてご説明しました。

※2024年度の事業活動および対処すべき課題に係る説明につきまして
は当社ホームページにて映像でご覧いただけます。
<https://www.fujielectric.co.jp/about/ir/stock/meeting/index17.html>
(右の二次元バーコードで株主総会のページにアクセスできます)



株主様のご承認に基づき、
以下の役員体制をスタートさせました。

取締役	北澤 通宏	常勤監査役	松本 淳一
取締役	近藤 史郎	常勤監査役	大橋 潤
取締役	宝泉 徹	社外監査役	高岡 洋彦
取締役	鉄谷 裕司	社外監査役	勝田 裕子
取締役	河野 正志	社外監査役	植松 則行
取締役	三吉 義忠 (新任)		
社外取締役	丹波 俊人		
社外取締役	富永 由加里		
社外取締役	立藤 幸博		
社外取締役	野城 智也		

※株主総会後の臨時取締役会において、
北澤通宏、近藤史郎の両名を代表取締役に
選定しました。

決議事項

取締役10名選任の件

賛成多数をもってご承認いただきました。



北澤会長CEO



近藤社長COO

TOPICS 変電機器の生産能力を1.5倍に増強

再生可能エネルギーの拡大や生成AIの普及に伴うデータセンター・半導体工場建設の増加、高度経済成長期に納入した機器の更新などを背景に、電力の安定供給に欠かせない変電機器の需要が急速に高まっています。

千葉工場 (千葉県市原市) で生産している変圧器・開閉装置のうち、開閉装置の生産を川崎工場 (神奈川県川崎市) に移管し、千葉・川崎両工場で変電機器の生産能力拡大に向けた設備投資を実施します。

2026年度までに変圧器と開閉装置の生産能力を現状の1.5倍へ高める計画です。



千葉工場

変圧器



川崎工場

開閉装置
(移管)

「親会社株主に帰属する当期純利益」は、本報告書においては「純利益」と表記しております。
本報告書の将来についての戦略等に関する記載は、作成時点において当社が合理的と判断した一定の前提に基づくものであり、実際の結果とは実質的に異なる可能性があり、当社はこれらの記載のうち、いかなる内容についても確実性を保証するものではありません。